

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体			
		Q 建築物の環境品質							3.3
Q1 室内環境			0.31		-		3.1		
1 音環境		3.6	0.15		-		3.6		
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.40		-				
1.2 遮音		4.2	0.40		-				
1 開口部遮音性能	T2建具を採用	5.0	0.60		-				
2 界壁遮音性能		3.0	0.40		-				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-		-				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-		-				
1.3 吸音	床:タイルカーペット、天井:岩綿吸音板と2面に吸音材を採用	4.0	0.20		-				
2 温熱環境		3.0	0.35		-		3.0		
2.1 室温制御		3.0	0.50		-				
1 室温		3.0	0.38		-				
2 外皮性能		3.0	0.25		-				
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38		-				
2.2 湿度制御		3.0	0.20		-				
2.3 空調方式		3.0	0.30		-				
3 光・視環境		2.6	0.25		-		2.6		
3.1 昼光利用		1.8	0.30		-				
1 昼光率		1.0	0.60		-				
2 方位別開口			-		-				
3 昼光利用設備		3.0	0.40		-				
3.2 グレア対策		3.0	0.30		-				
1 昼光制御		3.0	1.00		-				
3.3 照度		3.0	0.15		-				
3.4 照明制御		3.0	0.25		-				
4 空気質環境		3.5	0.25		-		3.5		
4.1 発生源対策		4.0	0.50		-				
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆の建材をほぼ全面に採用	4.0	1.00		-				
4.2 換気		3.0	0.30		-				
1 換気量	建築基準法及び建築物衛生法を満たす換気量の1.4倍を確保	5.0	0.33		-				
2 自然換気性能		1.0	0.33		-				
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33		-				
4.3 運用管理		3.0	0.20		-				
1 CO ₂ の監視		3.0	0.50		-				
2 喫煙の制御		3.0	0.50		-				
Q2 サービス性能		-	0.30		-		3.7		
1 機能性		2.9	0.40		-		2.9		
1.1 機能性・使いやすさ		1.6	0.40		-				
1 広さ・収納性		3.0	0.33		-				
2 高度情報通信設備対応		1.0	0.33		-				
3 バリアフリー計画		1.0	0.33		-				
1.2 心理性・快適性		3.6	0.30		-				
1 広さ感・景観	事務室の天井高:3.0m	5.0	0.33		-				
2 リフレッシュスペース	執務スペースの1%以上のリフレッシュスペース、自動販売機の設置	5.0	0.33		-				
3 内装計画		1.0	0.33		-				
1.3 維持管理		4.0	0.30		-				
1 維持管理に配慮した設計	防汚性の高い建材に加え、乾湿作用・防錆・防鳥対策を講じている	4.0	0.50		-				
2 維持管理用機能の確保	清掃資材置き場や流しを設置、バルブは操作しやすい位置に設置されている。	4.0	0.50		-				
2 耐用性・信頼性		4.2	0.30		-		4.2		
2.1 耐震・免震・制震・制振		5.0	0.50		-				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	建築基準法に定められた50%増の耐震性有する。	5.0	0.80		-				
2 免震・制震・制振性能	建物全体の揺れを抑える装置を導入	5.0	0.20		-				
2.2 部品・部材の耐用年数		3.4	0.30		-				
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20		-				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20		-				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	事務室:床タイルカーペット6.5(フリースH50)、壁クロス張り(PBt12.5)、天井岩綿吸音板t9(PBt9.5)	5.0	0.10		-				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10		-				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水VLP(B)、汚水排水VP(B)、消火SGP(C)、Eは不使用。	5.0	0.20		-				
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20		-				
2.4 信頼性		3.8	0.20		-				
1 空調・換気設備		3.0	0.20		-				
2 給排水・衛生設備	災害などの停電時に飲料用等に使えるよう受水槽に水道の蛇口を設置	4.0	0.20		-				
3 電気設備		3.0	0.20		-				
4 機械・配管支持方法	耐震クラスSとする	5.0	0.20		-				
5 通信・情報設備	精密機器の地下空間への設置を避けている。ケーブルテレビの導入を計画している。	4.0	0.20		-				

3 対応性・更新性			4.3	0.30	-	-	4.3
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高:5.5m以上	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比:0.1以下	5.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり		倉庫の想定床荷重:4500N/㎡以上	5.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.4	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	天井点検口・ケーブルラック等にて仕上げ材を痛めることなく電気配線の更新・修繕ができる。	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	天井点検口・ケーブルラック等にて仕上げ材を痛めることなく電気配線の更新・修繕ができる。	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.39	-	-	3.3
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.0	0.30	-	-	4.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		敷地内にベンチを設け、休憩スペースを提供している。屋外テラスを設けている。	5.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.8
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI=0.69	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm]: 0.51、LED照明設備を採用	5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用			2.0	0.20	-	-	2.0
集合住宅以外の評価			2.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		1.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.7
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		自動水栓に加えて節水型便器も採用。	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.7	0.60	-	-	3.7
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		ビニル床シート、断熱材、吸音材、OAフロアにリサイクル材を採用	5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		OAフロアの採用、LGSの採用	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			4.0	0.20	-	-	4.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用		PRTR法に該当しない建材種別が1つある	4.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0、GWP=1の発泡剤を用いた断熱材を採用	5.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮		LCCO2排出率76%	3.9	0.33	-	-	3.9
2 地域環境への配慮			3.6	0.33	-	-	3.6
2.1 大気汚染防止		燃焼機器を採用していない	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	適切な量の駐輪場・駐車場を設置し、荷捌き用車両の駐車スペースも設置している。車両用入口と出口を別々に設置することで、周辺道路の渋滞緩和対策としている。	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	広告物照明の扱いの配慮事項の過半を満たしている	4.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	